

長浜市高月町馬上 水害履歴マップ その① ー地域特性ー

(平成 27 年 11 月 19 日)

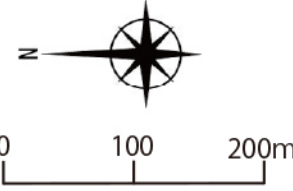
長浜市高月町馬上集会所にて行った聞き取り調査に基づき作成

馬上地区の歴史に関しては栗原基氏著

『馬上村と高時川水利慣行 1, 2, 3』

『馬上の学校』

を参考にした。



凡例

危険な箇所に関する情報

地域特性に関する情報

水防に関する情報

堤防

現在の馬上地区での水防活動状況

- ・高時川左岸（井明神や小山堤防あたりから山田川との合流点まで）、山田川右岸の堤防、餅ノ井（サイフォン部分含む）の3つについて警戒を行っている。
- ・馬上地区では代々、すばやく活動のできる年齢ということで、20～30歳が消防団員として水防に従事している。現在の消防団員は14名ほど。
- ・毎年一度防災訓練を行っている。2015年は鬼怒川の被害を参考にして、地区内が浸水している間は無理に移動せず家の二階などに避難し、その後落ち着いてから走落神社に集まるという避難計画を立てた。

土地の高いところに住居があり、高時川の水が溢れても被害を受けないため、特に水防活動は行っていなかった。

馬上地区は広く、また高時川の上流で決壊した場合も被害を受けるので、高時川のかなり上流（合同井堰のあたり）まで見回り（水防活動）に行っている。



昭和六十二年に山田川の改修が行われた。その際、大学教員の提言により、直線的に計画されていた流路を若干蛇行させるように変更した。

小山堤防のあたりでは左右岸の堤防の幅が違っており、左岸側の法の勾配は緩やかで、右岸側の坂は勾配はきつい。

走落神社は土砂崩れの危険性もあり、避難場所としての利用が難しい。

山田川の堤防は、左岸側は高く車道が堤防上にある。右岸側は低く雑草などが生い茂っている。

サイフォンの原理で餅ノ井が山田川の下をくぐっている。餅ノ井のトンネルの入り口が狭いため、餅ノ井が増水した場合は排水が追いつかず、溢水の原因となる。

豪雪地帯のため、冬季は雪がシャーベット状になって餅ノ井の山田川との交差点の入り口に詰まってしまう、餅ノ井の水が溢れることもある。

ポンプ小屋
土嚢袋を備蓄している。

馬上地区は三方を山と高時川・山田川の堤防で囲まれており、浸水すると排水が難しく、水がはけるまでに時間がかかる。

高時川沿岸は地面を掘り返すと砂利が出てくる。元来、高時川の氾濫原であり、歳月をかけて堆積した地層である。

昭和に餅ノ井の排水路と水門が設置された。大雨時には水門を閉める。これにより、餅ノ井の増水はある程度防ぐことができるようになった。しかし冬季は水門を閉めると雪が流れなくなり餅ノ井の山田川との交差点が詰まるので、閉められない。

霞堤の開口部になっているため、高時川が増水したときには水が溢れやすい。